



曾木の子

ホームページ <http://www5.synapse.ne.jp/es-so/>

学校便り No. 5

令和3年 9月15日(火)発行

伊佐市立 曾木小学校

TEL:25-1152 FAX:25-1162

伊佐市 大口曾木1753番地

SDGsから考えること

校長 山田 俊也

SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。

開発アジェンダの節目の年、2015年の9月25日～27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。(国際連合広報センターホームページから引用)

SDGsでは、17の大きな目標が掲げられています。例えば、「4.質の高い教育をみんなに、5.ジェンダー平等を実現しよう、9.産業と技術革新の基盤をつくろう、15.陸の豊かさを守ろう」などがあります。

さらに、各目標の中には細かなターゲットがあり、169項目あります。「4.4」は「2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。」となっています。

文章からすると、難しいことのように思われるかもしれませんが、プラスチックゴミを削減するために、レジ袋の有料化、買い物バッグの活用、曾木小でも取り組んでいるアルミ缶や段ボール回収もその一つです。アルミ缶はつぶして燃やせないゴミとして出したり、段ボールはちぎって燃やせるゴミとして出せば、環境への影響がありますが、リサイクルすることで少しは環境の保全につながります。

先日、地域の方が、水田で農業用ドローンを使って薬剤散布をされている様子を見ました。いわゆるスマート農業へと変化していることを実感しました。

私も子どものころに、水田での薬剤散布の手伝いをさせられた経験があります。炎天下の中、動力噴霧器につないだ長いホースを使い、両サイドを父と二人で持ちながら移動して散布していました。

ドローンを活用することで、雑草をピンポイントで狙って散布でき、ガソリンなどの燃料ではなく電池で駆動するために、二酸化炭素量の削減にもつながります。このことは、SDGsと深く関連しています。

しかしながら、農業用ドローンは、まだまだ高額で、何らかの公的支援がなされることを期待したいところです。

AI活用→スマート農業→SDGs



曾木小上空から川内川を望む